

第7回「(仮称)JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」策定懇談会

日時：令和7年9月1日（月）14時00分～

場所：ライトキューブ宇都宮 大会議室202

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 会議の公開について

4 議 題

○ (仮称) JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画について 資料 1

5 そ の 他

6 閉 会

〔配布資料〕

- ・ 次第・名簿
- ・ 資料 1 (仮称) JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画について
- ・ 別紙 1 (仮称) JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画（素案）
- ・ 別紙 2 (仮称) JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画（概要版）

第7回「(仮称)JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」策定懇談会 出席者名簿

(敬称略)

分野	所属/職名	氏名	出欠	代理者職名	代理者氏名
学識経験者	早稲田大学理工学術院 教授	◎森本 章倫	出		
	東京大学大学院 教授	中井 祐	欠		
	宇都宮大学 准教授	○長田 哲平	欠		
関係団体	J R宇都宮駅西口地区まちづくり協議会 会長	市村 耕三	出		
	J R宇都宮駅西口地区まちづくり協議会 副会長	坂本 守弥	代理	理事	稲葉 浩幸
	ゼビオホールディングス株式会社 副社長執行役員	近野 泰	出		
	株式会社日本エスコン 開発事業本部 首都圏開発2部 PM部マネージャー	庄司 元康	出		
	宮の橋・田川活性化プロジェクト実行委員会 実行委員長	村上 龍也	出		
	築瀬地区連合自治会 会長	栗原 伸一	出		
	錦地区連合自治会 会長	増田 良二	出		
	社会福祉法人 宇都宮市社会福祉協議会 常務理事兼事務局長	梓澤 昌徳	出		
	特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり推進機構 事務局長	寺澤 悦夫	出		
	宇都宮商工会議所 常務理事	小関 裕之	出		
	独立行政法人 都市再生機構 東日本都市再生本部 まちづくり支援部 部長	鈴木 孝弘	出		
交通事業者	東日本旅客鉄道株式会社 大宮支社 企画総務部経営戦略ユニットユニットリーダー	神保 成究	出		
	J R宇都宮駅西口構内バス協議会 (関東自動車株式会社 代表取締役社長)	吉田 元	代理	取締役 執行役員	石原 玲一
	J R宇都宮駅西口構内タクシー組合 (泉タクシー株式会社 代表取締役社長)	荒井 勝	代理	副会長	毛木 昭司
	宇都宮ライトレール株式会社 代表取締役	酒井 典久	出		
行政機関	栃木県 県土整備部交通政策課 課長	橋本 達雄	出		
	栃木県 県土整備部都市政策課 課長	本間 毅	代理	課長補佐	坂入 芳昭
	栃木県警察本部 交通部交通規制課 課長	高村 由総	代理	係長	萩原 淳平

◎：会長 ○：副会長

第7回 JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画策定懇談会

JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画について

<JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画(素案)>

【趣 旨】

「JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」の素案をとりまとめたことから、その内容についてご意見を伺うもの

令和7年9月1日(月)

都市整備部 市街地整備課

- 第6回懇談会に対する主な意見
- JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画(素案)について

第6回懇談会(駅前広場の平面図イメージ)に対する主な意見

交通空間に関する意見

- ・タクシー乗降場をバスロータリーと一体化する変更は、利用者の利便性向上や、混雑の緩和に繋がると考える
- ・駅正面がバス・タクシー空間になることは仕方がないが、可変性のある空間として、将来の交通需要の変化に対応しながら、更なる人中心の空間への転換をお願いしたい
- ・駅南側にも駅利用者の駐車場や荷捌きスペースの整備が必要。駅南地区内における一般車の降車需要への対応を検討してほしい
- ・タクシー乗車位置は、駅改札前からのアクセス性や視認性など、利用者の利便性の観点から駅正面への配置を検討してほしい
- ・タクシープールの設計には駅前空間に普段必要な台数を確保の上、駅周辺に「第二待機場」を設けるなど、現在と同等の規模を確保してほしい
- ・高齢者や身体の不自由な方等、外出時に配慮が必要な方については、一般車空間内においても、駅舎に近い位置に専用乗降スペースを確保する必要がある。また、その運用が徹底できる方策を検討する必要がある
- ・駅前広場の再整備に伴う、一般車のアクセス動線の変更や乗降スペースの使い方などについて、市民への理解と周知に十分な時間をかけてほしい

歩行(広場)空間に関する意見

- ・駅前広場・中央地区と北地区を繋ぐ歩行者動線については、車道を横断しないように2階空間における動線の確保が必要である
- ・2階交流広場について、中心市街地との往来やJR・LRT乗換の利便性向上に繋がると考える。広場の位置・面積、活用法については十分検討してほしい
- ・駅前広場内に一体的に設ける交流広場は、本市の玄関口として歴史や文化を感じさせるシンボリックで印象的な空間となることが望ましい
- ・高齢化などを踏まえ、乗換においては「なるべく簡単に、歩く距離は短く」という要請が強まるので、出来る限り負担軽減できるような工夫をしてほしい

土地利用に関する意見

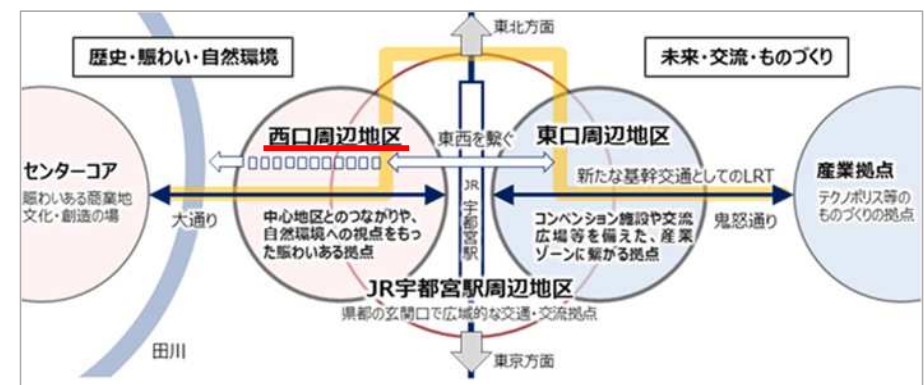
- ・北地区の整備では、交通円滑化を考慮しながら県道からのアクセス動線を検討する必要がある。また、2階通路による歩行者動線の接続が必要。駐車場、商業施設、スポーツ施設などを備えた多機能・多目的高層ビルの整備を期待している
- ・中央地区の再整備にあたり、将来イメージ図のように駅から田川が見えるような空間の確保や、どのように駅前との一体的な空間を生み出すのかを考えておくことが必要
- ・「北地区」含めて周辺街区が活性化空間として再開発されることは期待するが、街区ごとに単独の開発とみられないよう、駅前広場を中心に、西口周辺地区を繋ぐ分断されない一体感が醸成される工夫が必要

※ これらの意見については、今後の駅前広場の基本設計や周辺民間街区における開発事業などに活かしていく

- 第6回懇談会に対する主な意見
- JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画(素案)について

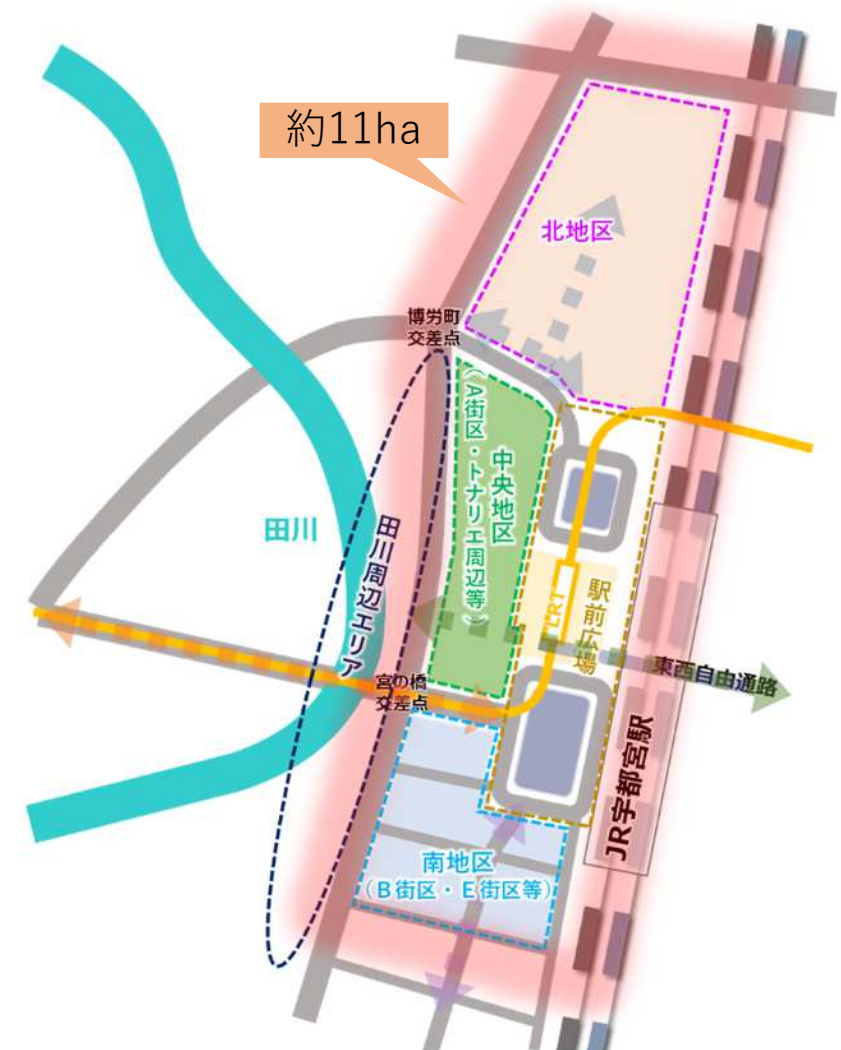
I-1 計画策定の背景・目的

- JR宇都宮駅西口周辺地区は、県都の玄関口として、都市空間の創出や高次な都市機能の集積、交通結節機能の強化を図るため、まちづくりの基本理念や土地利用構想などを示す「JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本構想」を平成25年3月に策定した。
- 本構想の中で、本地区は、NCCをけん引する「都市拠点」の一つの核となる地区であり、様々な交通モードが結節する交通の要衝であるとともに、産業、業務、生活、文化などの交流を促進する広域交流拠点に位置づけている。
- こうした中、駅東側におけるライトライン開業や駅西側ライトライン延伸など公共交通ネットワークの構築に向けた検討の進展や、脱炭素社会の構築、防災性の向上など社会状況の変化や多様化するニーズへの対応が求められている。
- これらを踏まえ、現在のまちづくりを取り巻く環境の変化を捉えながら、基本構想の具現化に向けて、駅とまちが一体となった人中心の居心地の良い空間を創出していくため、地区の将来像やその実現に向けた整備方針などを取りまとめるもの。



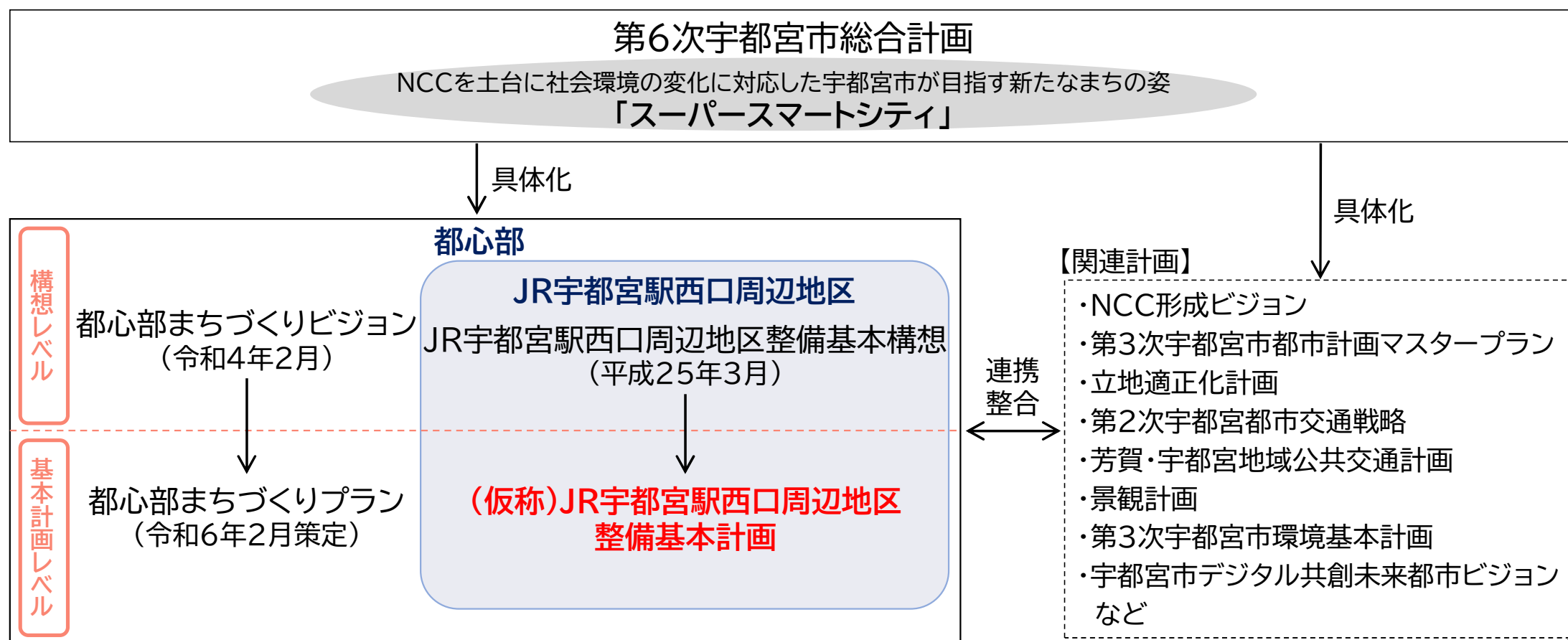
I-2 計画の範囲

- 平成25年3月に策定した「JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本構想」における対象範囲を基本としつつ, 土地利用状況や交通基盤の状況, 地区内のまちづくりの動向などを踏まえて, 駅前広場と田川周辺エリアを含む周辺の民間街区を中心としたエリアとする。



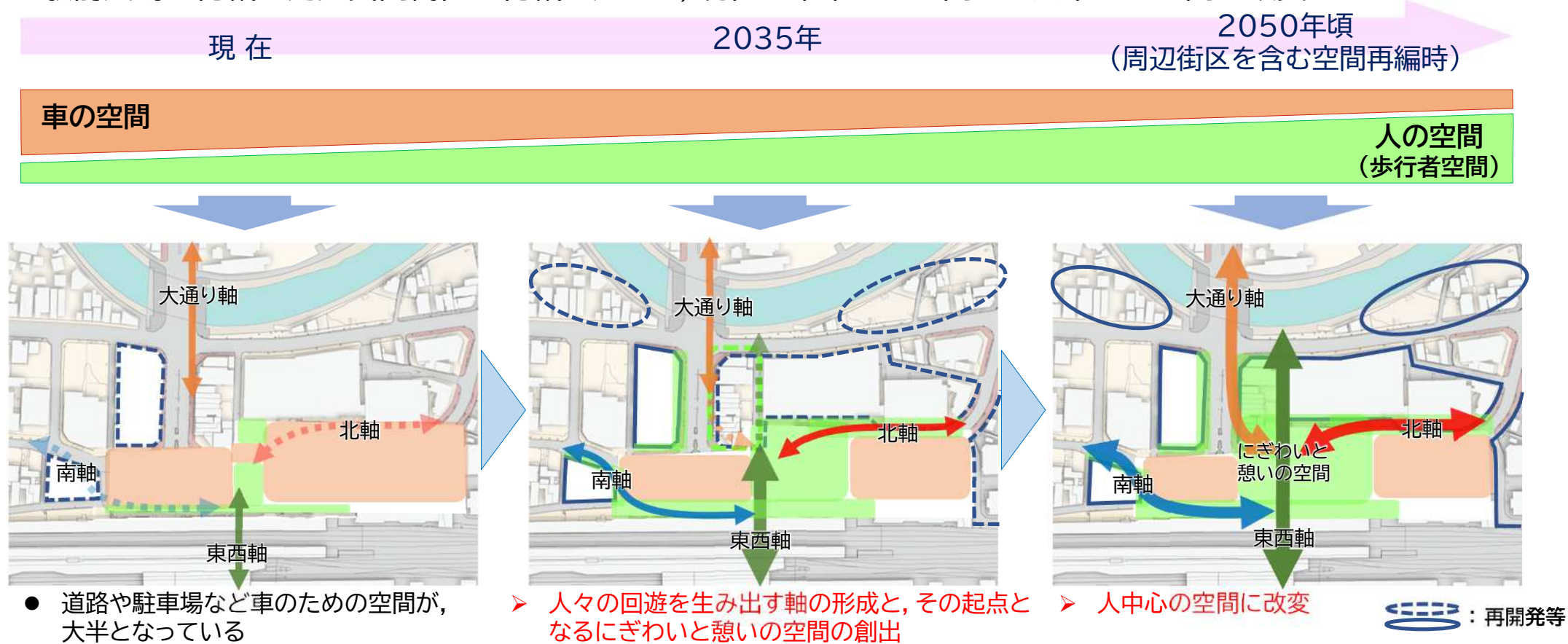
I-3 計画の位置づけ

- 本市が目指すスーパースmartシティの土台となるNCCをけん引する都心部の重要な拠点である駅西口周辺地区における、駅前広場と周辺街区が一体となって再編を進めていくための整備方針を示す計画



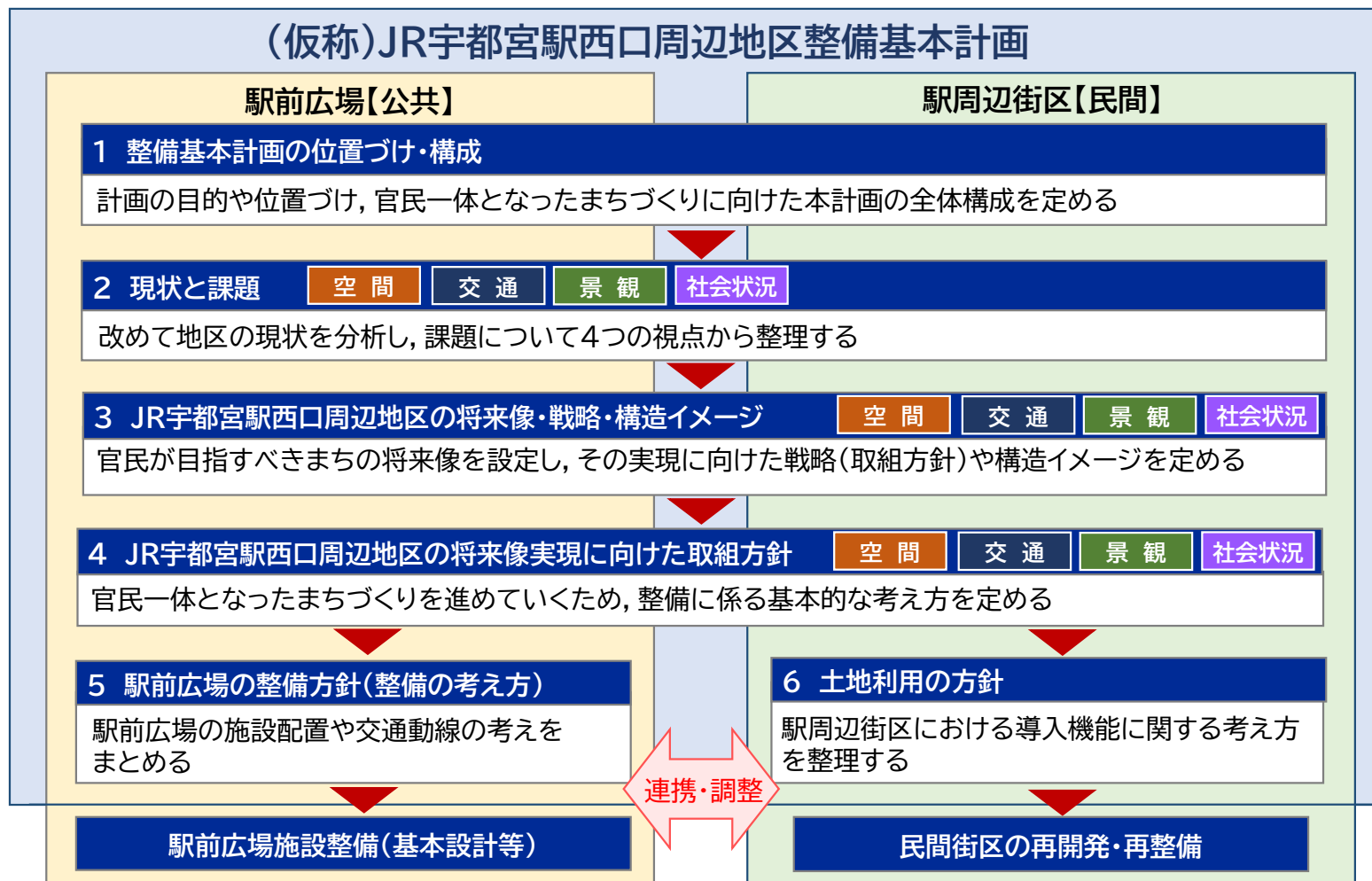
I-4 目標年次と空間の考え方

- 第6次総合計画基本構想やNCC形成ビジョンが示す2050年の目指すべきまちの将来像を見据えたうえで、駅西側ライトラインの整備と駅前広場の再編、さらには周辺民間街区の再開発等の進展を見通し、概ね10年後の2035年を目標年次とする。
- 駅前広場の再編や周辺民間街区の再編を通して、現在の車中心の空間から人中心の空間に改変していくもの



I-5 計画の構成

- 官民一体となったまちづくりを進めていくため、本計画は「駅前広場」と「駅周辺民間街区」の整備方針を一体的にとりまとめる



Ⅱ 【参考】基本構想におけるまちづくりの目標

● 基本構想におけるまちづくりの目標

基本構想においては空間・交通・景観の3つの視点からまちづくりの目標や課題を整理している。基本計画策定にあたっては、3つの視点に加え、構想策定後の社会状況など環境変化を踏まえながら、改めて課題整理を行う。

整備基本構想で示す整備方針

【基本理念】

広域的な交流拠点にふさわしい活力と風格あるまちづくり

【まちづくりの目標】

空間

1. 楽しさと活気あふれるまちづくり

にぎわい・
交流空間の
創出

交通

2. 交通利便性の高い安全で快適なまちづくり

交通結節
機能の強化

景観

3. 県都の玄関口にふさわしい風格と魅力のあるまちづくり

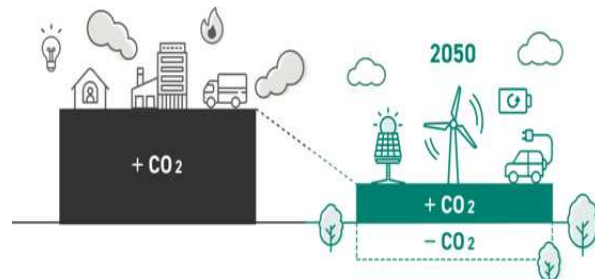
風格と魅力
ある都市景観
の形成



社会状況の
変化を踏ま
えた対応

Ⅱ 現状と課題

● 基本構想策定後の「社会状況(環境の変化)」と課題

テーマ	環境の変化	課 題
社 会 状 況	・NCCをけん引する都市拠点形成の一層の推進 ・都心部まちづくりプランに基づく人中心のウォーカブルなまちづくり ・ライトラインを基軸とした公共交通ネットワークの構築 ・誰一人取り残さないインクルーシブなまちづくり ・脱炭素社会の構築 ・自然災害に強くしなやかな環境形成 ・DXの推進による働き方の多様化	・多様化するニーズへの対応や、将来的な変化に柔軟に対応できるまちづくりを進めていく必要 ・ゼロカーボンシティ実現に向けたまちづくりが必要など
		 

Ⅱ 現状と課題

- 「社会状況(環境の変化)」を踏まえ「空間(都市機能・土地利用)」、「交通(交通結節機能)」、「景観(景観・アメニティ)」の3つの視点から改めて現状分析と課題整理を行う。

テーマ	現 状	課 題
空間	【問題点】 ・建築物の老朽化 ・大規模な平面駐車場や散在する駐車場などの低未利用地が存在 ・人中心の居心地の良い滞留空間不足 ・ゆとりある歩行者空間の不足	・老朽建築物の更新や低未利用地の有効活用を図る必要 ・官民一体となってゆとりある歩行者空間の創出などに取り組む必要 ・交通結節点として多様なニーズに応える都市機能の集積や、さらなるまちなか居住を推進する必要 など
	【環境変化】 ・ライトライン導入による交通結節点としてのポテンシャルの向上 ・市街地再開発事業の推進によるまちなか居住の促進	

Ⅱ 現状と課題

テーマ	現 状	課 題
交 通	【問題点】 ・各交通モードが大通りに集中混在することによる交通渋滞 ・自動車・歩行者動線の錯綜 ・デッキ上まで続くバスの待ち列 【環境変化】 ・ライトライン導入による交通結節機能の強化 ・交通分野におけるデジタル化 ・自動運転技術の進展	・ライトライン導入を見据えた自動車動線・歩行者動線を整理するとともに、誰もが安全・安心・快適に移動できる乗換環境を整備する必要 ・自動運転をはじめとしたデジタル技術の進展など、交通環境の変化に対応する環境整備が必要 など   
	【問題点】 ・田川などの地域資源が活かしきれていない ・看板の乱立など統一感に欠けた景観 ・緑を感じられる空間の不足 【環境変化】 ・まちのシンボルとなるライトラインの導入	・田川や大谷石など宇都宮の地域資源や緑を活かした統一感のある景観形成に取り組む必要 など   

Ⅲ-1 地区の将来像と戦略

- 現状と課題を踏まえ、「地区の将来像」とその実現に向けたまちづくりの視点ごとに4つの「戦略」を整理

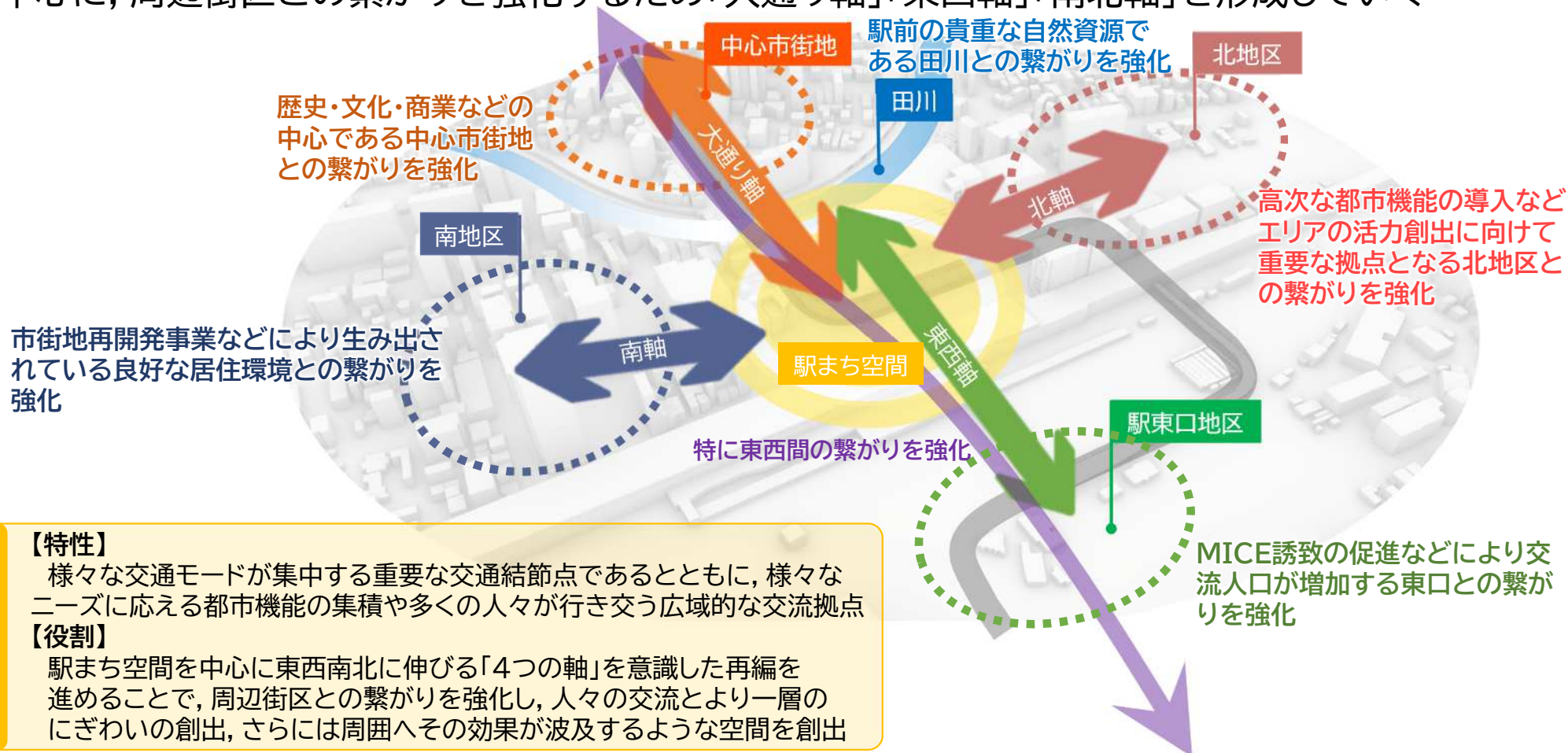
【地区の将来像】

**県都の玄関口にふさわしい風格とにぎわい溢れる
「交通」と「まち・水・緑」が調和した人中心の居心地の良い空間**

テーマ	まちづくりの戦略
空間	人中心の新たな「駅まち空間」 ▶車から人中心の空間へ転換していくことで、人々の賑わい溢れる居心地の良い空間を形成
交通	誰もが安全・安心に移動でき、多様なモビリティが連携した交通空間 ▶公共交通の利便性向上と自動車・歩行者の安全・円滑に移動できる空間を形成
景観	県都の玄関口にふさわしい潤いと風格のある景観の形成 ▶宇都宮の地域資源との繋がりを感じられる、水と緑を活かした統一感のある景観を形成
社会状況	社会変化に対応できる、人と環境に優しいまちなか ▶多様化するニーズや社会潮流の変化に対応できる、人と環境に優しい空間を形成

III-2 構造イメージ

- 駅西口周辺地区の構造イメージ(駅まち空間と軸の形成方針)
将来像を実現するため、駅や駅前広場と周辺街区を一体的に捉えながら、駅前広場などの「駅まち空間」を中心に、周辺街区との繋がりを強化するため「大通り軸」「東西軸」「南北軸」を形成していく



【特性】

様々な交通モードが集中する重要な交通結節点であるとともに、様々なニーズに応える都市機能の集積や多くの人々が行き交う広域的な交流拠点

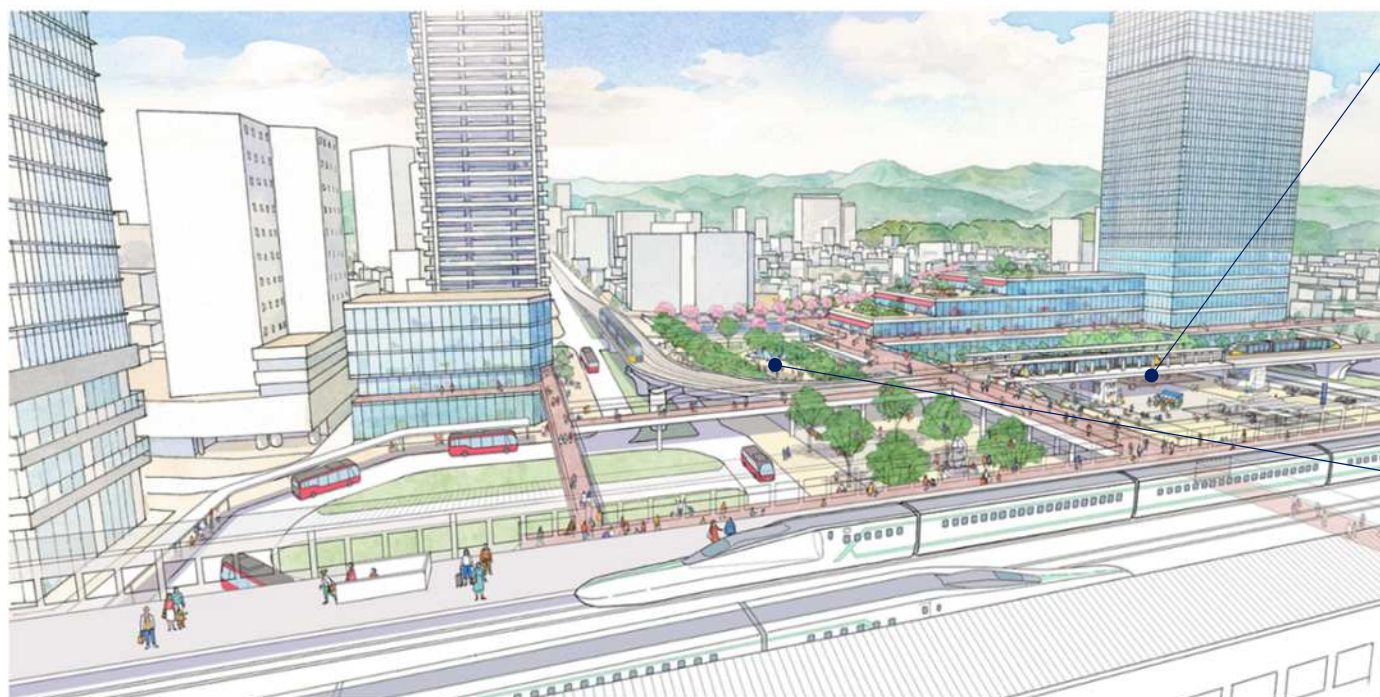
【役割】

駅まち空間を中心に東西南北に伸びる「4つの軸」を意識した再編を進めることで、周辺街区との繋がりを強化し、人々の交流とより一層のにぎわいの創出、さらには周囲へその効果が波及するような空間を創出

Ⅲ-3 将来イメージ

● 駅西口周辺地区の目指す将来像を可視化(イメージ図)

まちなかと駅をつなぐ、人とライトラインやバス、タクシーなど
各交通モードが共存した人中心のウォーカブルな空間



ライトライン、鉄道、バス、タクシーなどの各交通モードの利用者が行き交う新たな駅前の顔となる空間



まちなかと駅をつなぐ周辺民間街区と一体となった
緑あふれる人中心の居心地の良い空間

※ このイメージ図は、JR宇都宮駅西口周辺地区の整備に向けた検討を深めていくために、これまで懇談会で議論してきた内容を基に、令和6年10月に作成・公表したものであり、LRTの構造や駅前広場、周辺開発、交通動線などについて確定したものではありません

IV 将来像実現に向けた取組方針

- 地区の将来像の実現に向け、地区の現状・課題も踏まえながら、戦略ごとに取組方針をとりまとめる

空間 戦略:人中心の新たな「駅まち空間」

- 駅・駅前広場・周辺街区が一体となった人中心のウォーカブルな空間を形成
 - ➡ 人中心のウォーカブルな空間を官民が連携してつくりあげる
- 市民や来街者にとって居心地の良い、憩いや交流の場所となる空間形成
 - ➡ 駅前に広場空間を確保
- にぎわいと魅力向上につながる都市機能の導入と効果的な配置
 - ➡ 地域経済の活性化や交流人口の増加などにつながる駅前にふさわしい機能を官民が連携して導入



交通 戦略:誰もが安全・安心に移動でき、多様なモビリティが連携した交通空間

- 誰にとってもスムーズな乗継利便性の高い交通空間の形成
 - ➡ 交通結節機能強化と過度な自動車流入の抑制
- 回遊性が高く、安全・安心・快適な歩行空間の形成
 - ➡ 歩行者が車を気にせず、また、乗り換えの際は雨を避けて歩行できる空間
- デジタル技術の積極的な活用と需要の変化に応じた柔軟な対応
 - ➡ 将来の需要変化などに対応できるような可変的な空間配置を考慮

東京駅 八重洲グランルーフ



国土交通省 マルチモビリティステーション資料



IV 将来像実現に向けた取組方針

景観 戦略: 県都の玄関口にふさわしい潤いと風格のある景観の形成

- 水と緑が感じられる駅前にふさわしい景観の形成
 - ➡ 駅前に近接する田川を活かした潤いや安らぎを感じられる景観
- 宇都宮の文化を感じられる景観の形成
 - ➡ 大谷石など地場産材の活用や、ライトラインと沿線街並みとの調和
- 誰もが快適に感じられる景観の形成
 - ➡ 歩いていて楽しいと感じられるような魅力的な景観

花園町通り(愛媛県松山市)



丸の内仲通り(東京都))



社会状況 戦略: 社会変化に対応できる、人と環境に優しいまちなか

- 誰一人取り残さないインクルーシブなまちづくり
 - ➡ 誰にとっても居心地の良い空間とするため、バリアフリーやユニバーサルデザインへの取組
- 脱炭素社会の実現に向けた取組
 - ➡ エネルギーの効率的な活用や、創エネ化への取組
- 自然災害に強くしなやかな環境形成
 - ➡ 地震や豪雨、猛暑など自然災害への備え
- 空間の質を担保する仕組みづくり
 - ➡ 空間の質を維持・向上させていくためのエリアマネジメント等の取組



道の駅うつのみやろまんちっく村のEV充電スタンド



V-1 交通空間における現状と課題

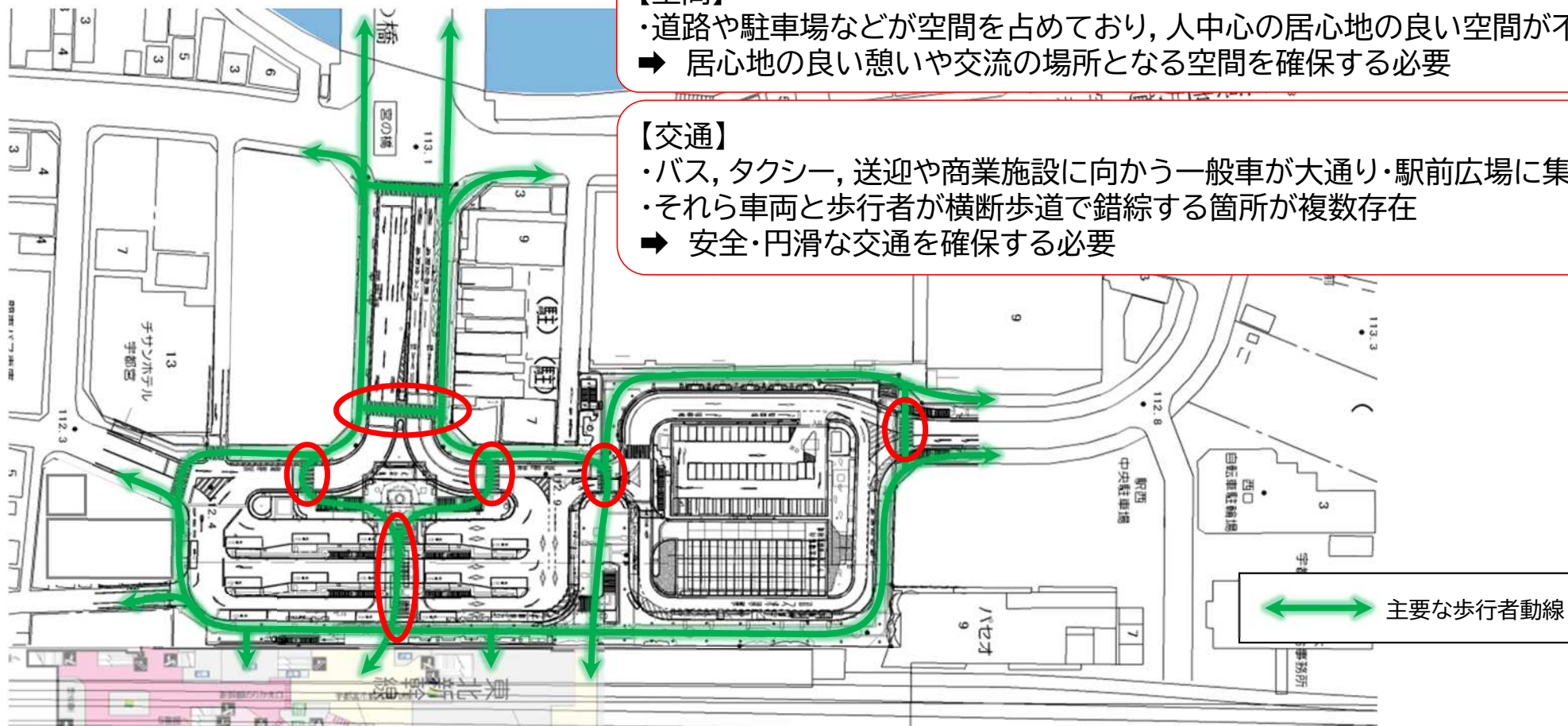
- 取組方針を踏まえ、「空間」「交通」などの視点に基づき整理した駅前広場における現状や課題に対応するため、駅前広場の整備方針をとりまとめる

【空間】

- ・道路や駐車場などが空間を占めており、人中心の居心地の良い空間が不足
- ➡ 居心地の良い憩いや交流の場所となる空間を確保する必要

【交通】

- ・バス、タクシー、送迎や商業施設に向かう一般車が大通り・駅前広場に集中混在
- ・それら車両と歩行者が横断歩道で錯綜する箇所が複数存在
- ➡ 安全・円滑な交通を確保する必要



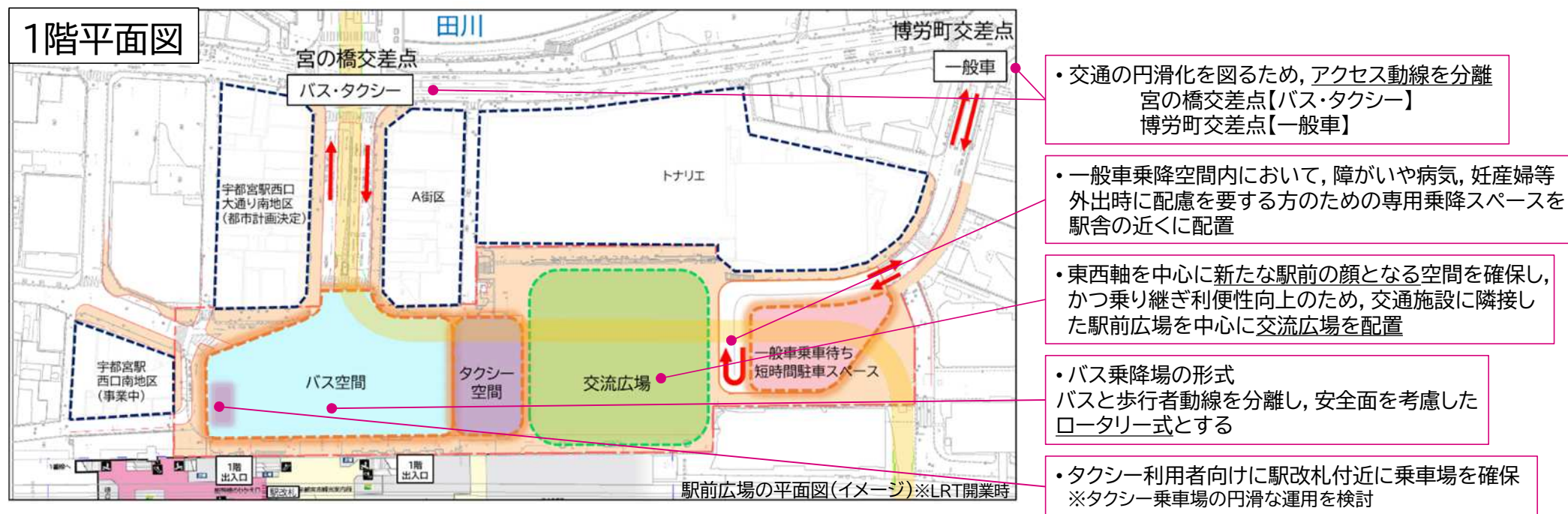
V-2 駅前広場の整備方針(整備の考え方)

● 駅前広場の整備の考え方(駅西側ライトライン開業時における駅前広場の平面図イメージ)

駅前広場のコンセプト

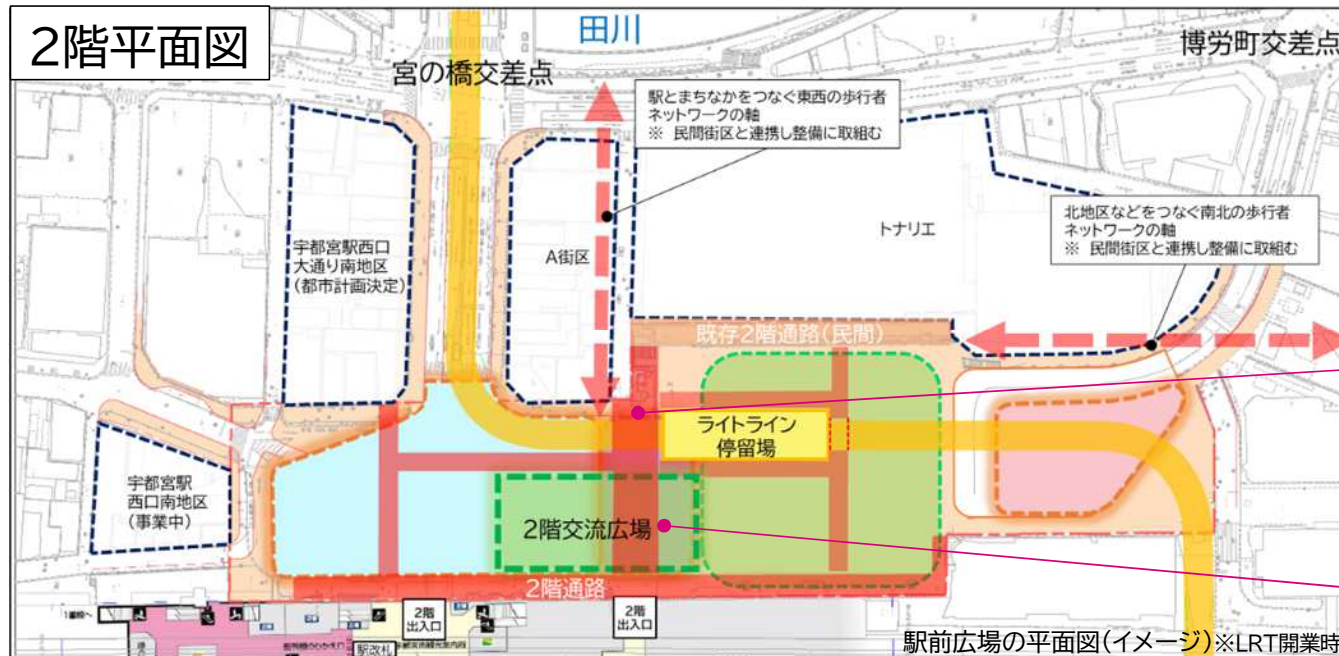
まちなかと駅をつなぐ、人とライトラインやバス、タクシーなど
各交通モードが共存した人中心のウォークラブルな空間

- 駅前広場への過度な自動車の流入抑制や歩行者と自動車の錯綜を解消していくことを基本に、限られた駅前空間を活用した各交通モードの特性を踏まえた効率的な交通施設等の配置や駅前へのアクセス動線の設定、1階と2階レベルにおける階層性のある歩行空間や広場を配置していく。



※ 駅前広場については、将来のさらなる技術の進展や交通需要の変化などにも対応しながら、人中心の空間に転換できる、可変性のある空間配置としていく。

V-2 駅前広場の整備方針(整備の考え方)



- 1階レベルに交流広場とゆとりある通路を確保するとともに2階レベルの通路も活用し、歩行者と車両の錯綜を解消
- 駅とライトライン、周辺民間街区をつなぐ回遊性の高い歩行者動線を設定
- 主要な乗り継ぎ動線などにはバリアフリーや利便性に配慮した昇降施設(エレベーターなど)を設置

- 来訪者が本市の顔として最初に感じる、本市の象徴となるライトラインと一体となった2階レベルの空間(交流広場)を配置

※ 駅前広場の整備方針を踏まえた、バス・タクシー空間などの配置や交通動線、空間の使い方などを具体的に示す「基本平面図」を作成中(駅西側ライトライン開業時)

※ 「基本平面図」を基に施設設計を進め、年度内を目途に交通施設の配置や規模を決定する基本設計をとりまとめる。

VI 土地利用方針

- 駅前広場の再整備と一体となった地区の将来像実現に向け、現在の土地利用や交通計画を考慮しながら、市街地再開発事業などにおける土地利用の方向性や導入機能を整理

※目指す土地利用に合わせた用途地域の適正化や都市計画制度の運用（地区計画など）を検討
 ※駅東口におけるMICE誘致の促進などによる交流人口増加の受け皿となる機能の導入を検討
 ※水と緑が感じられる駅前にふさわしい景観形成に向けたルールづくりや、脱炭素や防災機能の強化を図る施設の導入を検討

○ 駅前広場

【土地利用の方向性】

- ・ 交流広場を中心に、まちなかと駅をつなぐ、人とライトラインやバス、タクシーなど各交通モードが共存した人中心のウォークアブルな空間を形成

導入機能の考え方

- 各交通モードの利用者が行き交う新たな駅前の顔となる空間
- 市民や来訪者（公共交通利用者）の利便性向上につながる機能を配置
- 乗り継ぎの合間に休憩・飲食できるような機能を配置

導入機能：交流広場、交通利便機能（ベンチ・トイレ・チケットセンターなど）



○ 中央地区

土地利用の方向性

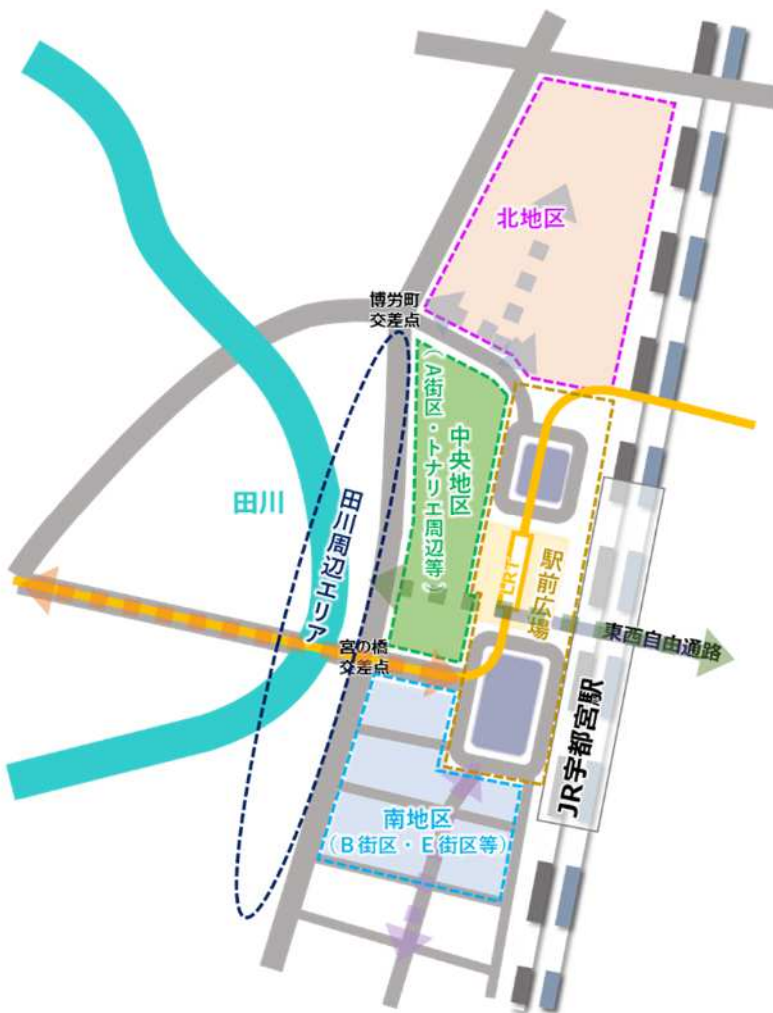
- ・ 駅前広場に隣接し、働く人や学ぶ人、住む人など多くの人が行き交う拠点として、様々なニーズに対応できる機能が集積した広域的な交流と賑わいの空間を形成

導入機能の考え方・留意点

- 多様な目的を持った多くの人が行き交う駅前の立地特性を踏まえ、交流広場に面する低層部に、様々なニーズに対応できる複合的な機能を誘導

導入機能：商業、医療・健康、教育・文化、業務、宿泊、子育て支援、多世代交流など





○ 南地区

土地利用の方向性

- 市街地再開発事業などによって生み出されてきたゆとりある歩行空間や緑を感じる沿道を活かした、憩いへとつながる生活空間を形成

導入機能の考え方

- 現在の土地利用を踏まえた居住などの機能や、観光など来訪者の多様なニーズに応えられる機能を誘導

導入機能：居住、宿泊、商業、業務、駐車場など



○ 北地区

土地利用の方向性

- 駅西口周辺地区の活力創出やエリアの魅力向上に向けた重要な拠点として、基盤整備により低未利用地を利活用し、都市機能の導入など賑わい空間を形成

導入機能の考え方

- 人の流れを誘発し賑わいの創出につながる機能や、文化・芸術に触れることができる機能を誘導
- 駅利用者や周辺商業施設等の附置義務駐車場の一部を担う駐車機能を誘導

導入機能：商業、医療・健康、教育・文化、業務、居住、宿泊、集約駐車場など



○ 田川周辺エリア

土地利用の方向性

- 中央地区・南地区などと連携を図りながら、田川などの地域資源を活かした、水や緑を感じられる賑わい空間を形成

導入機能の考え方

- 地域資源である田川に隣接する強みを活かした回遊性や賑わいを高める機能を誘導

導入機能：商業、宿泊、居住など



VII 今後の取組イメージ

● 駅前広場の再整備及び駅周辺街区の再編に向けた官民一体で取組むまちづくりの進め方

エリア		2030年	2040年	2050年
駅前広場		- 整備基本計画を踏まえた基本設計(2025)→詳細設計の実施 - 駅前広場の整備・供用開始 ※ 段階に応じて部分共用を図っていく	- 駅前広場の使い方の周知・啓発(交通マナーなど) - 駐車場の適正化や需要に応じた交通空間の適正化(交通利用者の需要の変化や自動運転技術の普及など)	
南地区	B・E街区	市街地再開発事業の着実な推進	再開発建物を活かしたエリアの魅力向上につながる取組(エリアマネジメントなど)	
	C・D・F街区等	老朽建物の更新や都市機能の導入に向けた市街地再開発事業等の検討	市街地再開発事業等の推進	
中央地区 (A街区・トナリエ周辺)		- 権利者意向確認 - 事業化に向けた検討 ・導入機能やアクセス動線の検討 ・市場調査等行いながら事業スキームの検討	- 市街地再開発事業等の推進 - 再開発建物を活かしたエリアの魅力向上につながる取組(エリアマネジメントなど)	
北地区		- 権利者意向確認 - 事業化に向けた検討 ・導入機能やアクセス動線の検討 ・市場調査等行いながら事業スキームの検討	- 市街地再開発事業等の推進 - 再開発建物を活かしたエリアの魅力向上につながる取組(エリアマネジメントなど)	
		- 駐車場の適正化や集約配置(集約駐車場の整備など) - 土地の有効活用に向けた基盤整備(土地区画整理事業)		
田川周辺 エリア		- 権利者意向確認 - 事業化に向けた検討 ・導入機能やアクセス動線の検討 ・市場調査等行いながら事業スキームの検討	- 市街地再開発事業等の推進 - 再開発建物を活かしたエリアの魅力向上につながる取組(エリアマネジメントなど)	

VII 今後の取組イメージ

● 事業推進に向けて

- 官民が一体となって将来像を実現していくため、基本計画を踏まえながら、駅前広場の整備について、交通事業者や交通管理者、栃木県などの関係機関と十分に連携・調整を図りながら取り組むとともに、周辺街区における市街地再開発事業などについて、地元権利者の合意形成や民間事業者との密な連携・調整のもと、取り組んでいく
- 実施に当たっては、引き続き外部懇談会などを設置し、学識経験者や地元住民の代表者などの意見も伺いながら、これまで以上に官民一体となって取り組んでいく

行 政

役割① 基盤を作る

- 駅前における公共交通の利便性を高める交通結節拠点の基盤整備
- 人々が集い、憩えるとともににぎわいを生む駅前広場と周辺街区へつながる歩道者動線の整備

役割② ルールをつくる

- 県都の玄関口にふさわしい駅西口周辺地区における景観形成に資するルールの策定
- 駐車場適正配置の誘導・推進
- 都市計画制度等の規制誘導手法を活用したまちの機能誘導や公共空間の利活用の推進

役割③ 事業者を支える

- 駅と民間街区の連携した整備を推進する民間開発事業に対する支援
- 駅周辺の価値向上に向けたエリアマネジメント組織などの設立支援

市 民

役割① まちをつくる

(主に地権者など)

- 将来像に応じて、にぎわい、憩い、交流空間創出等への協力と、統一感のある景観の創出、建て替え時等におけるオープンスペースの確保
- 開発による新たな住民コミュニティとの融合

役割② まちを使う・育てる

(主に居住者・就業者・学生など)

- 駅前広場等の新たな公共空間の積極的な活用やにぎわいづくりへの参画
- LRT、バス、タクシーなどの公共交通の積極的な利用

事業者

役割① まちをつくる

(主にデベロッパーなど)

- 地区に適した手法（再開発等）による、駅周辺にふさわしい機能導入、機能集積につながる事業の提案・実施
- 公共空間と連携した豊かなオープンスペースの創出と県都の玄関口にふさわしい景観形成の実現

役割② サービスをつくる・アップデートする

(交通事業者、各種サービス事業者)

- 鉄道、バス、タクシー、LRT事業者等が協力し、交通結節拠点における円滑でシームレスな公共交通サービスの提供
- ICT等の新技術の導入などを通じた新たなサービスの提案・創出、合わせて更なる空間の有効活用による段階的な人中心のまちづくりへの協力